

あんによ
安 養

～弘願院だより～
第十三号



弘願院寺報『安養』をご覧のみなさまへ

2023年(令和5年)になり早くも2カ月が過ぎました。雪も多く、例年より気温の低かった金沢の街も春に向かいつつあります。猛威を振るった新型コロナウイルスによって我々の常識や習慣も大きく変化がありました。そんな新型コロナウイルス感染症の位置づけも2類から5類に以降となり、マスクの着用も各々の判断に任されるようになる等、これから我々の生活習慣はまたもや変化があることでしょう。

檀信徒の皆さまをはじめ、多くの有縁の方々のご理解ご協力をいただき、2年かけての修繕が間もなく終わろうとしています。外観は見違えるほど整い、堂内の一部も併せて修繕をいたしました。お寺の姿も大きく変わりました。どうか皆さまにおかれましては新しい弘願院にもお参りください。これからの社会にとって地域にとって必要なお寺になるべく、日々邁進してまいります。

お寺の姿だけでなく、社会やお寺のあり方そのものも大きく変わりつつありますが、決して変わることはないのは「お念仏のみ教え」であります。法然上人が浄土宗をお開きになり、来年の2024年(令和6年)は【浄土宗開宗850年】の節目の年であります。

浄土宗開宗850年を目前に控えるこの2023年は修繕事業のみならず、改めてこの自分自身に何ができるか常に自分に問い続けながら浄土宗のみ教え、お念仏のみ教えを真面目に実直にお伝えし続けてまいります。

弘願院住職 森岡 達圭

2023年 弘願院年中行事のご案内

各年中行事を開筵し、その中でとなえたお念仏の功德を各家の先立たれた方々に回し向け、ご供養いたします。法要後には法話をさせていただきます。仏さまの教えをお取次ぎし、今を生きる我々にとって大切な「心の安穩」をお届けできるように努めてまいります。

2023年の年中法要は全て土曜日の開筵です。

お寺の修繕も済み、年中行事以外にもお寺をより身近に感じていただけるようなイベントを都度開催してまいります。

4月8日(土)~10日(月) ともいき てらつど 弘願院花まつり

仏教を開かれたお釈迦さまのお誕生をお祝いするイベントです。お参りされた方にカレーのおさがりが。何のカレーがもらえるかは仏のみぞ知る!? お釈迦さまのお誕生日は甘茶をかけ、カレーを食べてお祝いしよう。



4月22日(土) 14時より 法然上人御忌法要

浄土宗を開かれた法然上人の亡くなった忌日を偲び、そのお徳を讃える法要を「御忌」といいます。浄土宗の総本山、京都の知恩院で開かれる特別な法要でしたが、今では全国各地の浄土宗寺院で法要が行われています。この度弘願院では浄土宗の宗祖法然上人の812回忌の法要を勤めます。



6月24日(土) 14時より 盂蘭盆施餓鬼法要

亡きご先祖さまを極楽浄土からお迎えし、供養するお盆の法要です。この法要では飢えや渇きに苦しむ餓鬼道に堕ちた「餓鬼」に施し供養する「施餓鬼法要」も併修します。



7月13日(木)~16日(日) 新盆 墓地供養

金沢市内は「新盆」としてお盆を迎える風習があります。お墓参りだけではなく、本堂に上がっていただき、ご本尊である阿弥陀さまへもご挨拶にお越しく下さい。



「浄土宗開宗 850 年 / 弘願院再建 350 年 慶讃法要」を今年の秋または来年春に予定しています。また詳細が決まりましたら別途ご連絡いたします。

弘願院の修繕の様子

弘願院第二期工事(本堂部分)間もなく終わる

9月下旬から始まりました第二期工事も3月下旬には終了予定です。本堂裏側外壁部分からはじまり、側面、屋根部分、正面部分と着実に進んでまいりました。

外観工事に併せて、本堂内でも特に傷んでいた廊下部分、裏堂位牌所も最低限修復をさせていただきました。



大がかりな屋根の修繕



建物を外から見ると見違えるほど綺麗に整いました。

この新しく生まれ変わった弘願院が

檀信徒の皆さまにとって、地域の皆さま

にとって大事な大事な心を養う場として

これから将来も残り続けてまいります。

檀信徒の皆さまにおかれましては、

工事の詳細は別途ご報告させていただきます。

運んでください。



住職が地域の民生委員・児童委員になりました

令和4年12月の民生委員・

児童委員一斉改選を受け、住職は

地域の民生委員・児童委員の

委嘱を受けました。

金沢にご縁をいただいでまだ

4年。地域のことわからない

ことが多い私ですが、地域のために

務めを果たしてまいります。

弘願院の活動が地域に根付いてきました

続けているフードドライブの活動に

地域のボランティアの方々がお手伝いを

してくださったり、規格外野菜を譲り

受け、山門前で無料配布を実施したり、

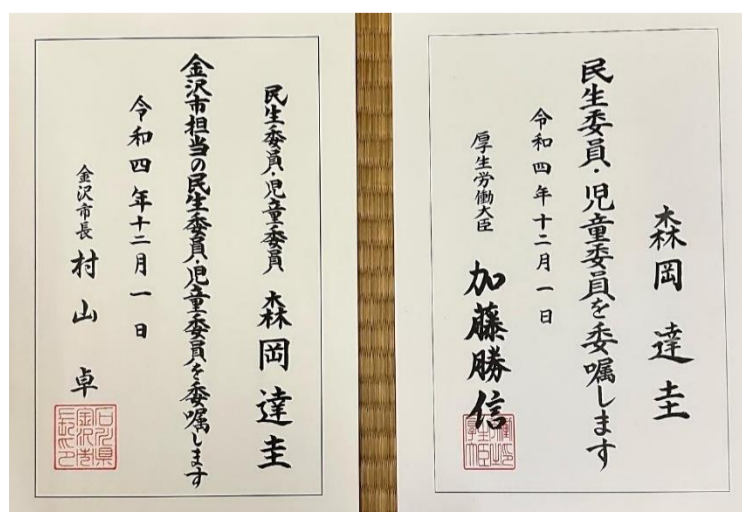
ともいき活動が徐々に広がっています。

これからも地域の為に何ができるか

考えながら発信と

行動を継続して

まいります。



地元に戻って何を思う

覚えたことを今でも思い出します。
 幼いながらこの詩の最後の部分に出合った時に衝撃を
 人々の多様性(ダイバーシティ)を受け入れる社会の実現
 が求められています。多数派や少数派という言葉もまだ
 根強く残り、自分が今まで見たものや聞いたもの、経験した
 もの、つまり自分のモノサシでついつい物事を考えてしま
 がちです。
 浄土宗で大切にする『阿弥陀経』という阿弥陀さまの
 おられる「極楽浄土」の様子を表すお経にこのような一説
 があります。

「みんなちがって

私が両手をひろげても お空はちつとも飛べないが
 飛べる小鳥は私のように 地面を速くは走れない
 私がかからだをゆすつても きれいな音は出ないけど
 あの鳴る鈴は私のように たくさんな唄は知らないよ
 鈴と小鳥と それから私 みんなちがって みんないい

みんないい」

昨年12月に九州地区の研修会に出席する前に久しぶり
 に地元山口へ戻りました。地元の懐かしい場所を巡ると
 共に、詩人の金子みずぐささんの地元である山口県長門市
 仙崎を歩きました。みずぐささんの詩は地元山口では小学校
 の国語の教科書や合唱コンクールでも歌うなどいつも身近
 にありました。みずぐささんの有名な詩に「私と小鳥と鈴と」
 という詩があります。

「地中蓮華 大如車輪 青色青光 黄色黄光
 赤色赤光 白色白光 微妙香潔」
 意識

極楽浄土の池の中には蓮の華が咲き誇っており、
 その蓮の華は車輪ほど大きい。
 青色の蓮は青い光を放ち、黄色の蓮は黄色い光を放ち、
 赤い色の蓮は赤い光を放ち、白色の蓮は白い光を放ち、
 それらの花々は清らかで芳しい香りが漂っているのです。

互いに罵り合うことなく、それぞれの個性(違い)
 を認め合いそれぞれが輝いている。まさに仏さまの
 世界の様子であります。

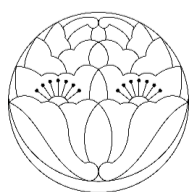
この娑婆世界にいる我々は互いに認め合うところ
 か、互いに比べ合い、一喜一憂してしまう、そんな
 我々ではないでしょうか？

それぞれの個性(違い)を尊重しあい、
 阿弥陀さまの極楽浄土のような優しい思いやりの
 ある世の中を築き上げるのは
 紛れもなくこの我々一人一人
 です。お互いの違いを素直に
 認め合い、尊重し支えあえる
 世の中でありませうように。

「みんなちがって みんないい」



～心の距離が近い浄土宗のおてら～



ぐ がん いん
弘 願 院

〒921-8031 石川県金沢市野町 1-3-87
 Tel : (076) 243-8024
 mail : guganin.jodo@gmail.com



弘願院のHPや各SNSを
 まとめたQRコードです。



弘願院は「持続可能な
 開発目標(SDGs)」を
 支援しています。
 金沢市ともSDGsに
 取り組むにあたり、
 パートナーシップを結ん
 でいます。

法然共生

発行年月日 2023年3月9日
 発行者 安養山 弘願院
 住職 森岡 達圭